

第 35 回建設業経理事務士検定試験

3 級試験問題

注 意 事 項

1. 解答は、解答用紙に指定された解答欄内に記入してください。解答欄外に記入されているものは採点しません。
2. 金額の記入にあたっては、以下のとおりとし、1ますごとに数字を記入してください。

↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
一	千	百	十	一	千	百	十	一
億	万	万	万	万	の	の	の	の
の	の	の	の	の	位	位	位	位
位	位	位	位	位				

3. 解答は、指定したワケ内に明瞭に記入してください。判読し難い文字が記入されている場合、その解答欄については採点しません。
4. 設問中の各取引について、消費税は一切考慮しないこととします。
5. 解答用紙には、氏名・受験番号シール貼付欄が2カ所あります。2カ所とも、氏名はカタカナで記入し、受験番号は受験票に付いている受験番号シールを貼ってください。なお、受験番号シールがないときは、自筆で受験番号を記入してください。
(氏名・受験番号が正しく表示されていないと、採点できない場合があります。)

〔第1問〕 愛媛工務店の次の各取引について仕訳を示しなさい。使用する勘定科目は下記の〈勘定科目群〉から選び、その記号（A～U）と勘定科目を書くこと。なお、解答は次に掲げた（例）に対する解答例にならって記入しなさい。

（20点）

（例） 現金¥100,000を当座預金に預け入れた。

- （1） A社から工事代金の未収分¥650,000が当座預金に振り込まれた。なお、当座借越勘定の残高¥450,000がある。
- （2） 現金過不足として処理していた¥55,000は、本社事務員の旅費であることが判明した。
- （3） B社株式を¥1,500,000で買い入れ、代金は手数料¥30,000とともに小切手を振り出して支払った。
- （4） C工務店から外注作業完了の報告があり、その代金¥800,000のうち¥500,000については手持ちの約束手形を裏書譲渡し、残りの¥300,000は翌月払いとした。
- （5） D社に対する貸付金の回収として、郵便為替証書¥30,000を受け取った。

〈勘定科目群〉

A 現金	B 当座預金	C 現金過不足	D 当座借越	E 有価証券
F 貸付金	G 未成工事受入金	H 工事未払金	J 受取手形	K 支払手形
L 給料	M 労務費	N 外注費	Q 経費	R 完成工事未収入金
S 旅費交通費	T 通信費	U 未払金		

〔第2問〕 次の原価計算表と未成工事支出金勘定に基づき、解答用紙の完成工事原価報告書を作成しなさい。（12点）

原価計算表

（単位：円）

摘要	A工事		B工事		C工事	D工事	合計
	前期繰越	当期発生	前期繰越	当期発生	当期発生	当期発生	
材料費	×××	95,000	×××	×××	47,000	×××	×××
労務費	105,000	×××	×××	54,000	×××	74,000	499,000
外注費	150,000	120,000	88,000	×××	51,000	68,000	534,000
経費	85,000	74,000	45,000	29,000	18,000	×××	287,000
合計	480,000	405,000	×××	×××	183,000	244,000	×××
期末の状況	完 成		完 成		未 完 成	未 完 成	

未成工事支出金

（単位：円）

前期繰越	802,000	完成工事原価	×××
材料費	293,000	次期繰越	×××
労務費	×××		
外注費	×××		
経費	×××		
	×××		×××

【第3問】 次の<資料1>及び<資料2>に基づき、解答用紙の合計残高試算表（平成×年6月30日現在）を完成しなさい。
 なお、材料は購入のつど材料勘定に記入し、現場搬入の際に材料費勘定に振り替えている。 (30点)

<資料1>

合計試算表
平成×年6月20日現在

(単位：円)

借 方	勘 定 科 目	貸 方
726,000	現 金	258,000
945,000	当 座 預 金	448,000
624,000	受 取 手 形	386,000
557,000	完 成 工 事 未 収 入 金	328,000
450,000	材 料	185,000
390,000	機 械 装 置	
210,000	備 品	
320,000	支 払 手 形	689,000
165,000	工 事 未 払 金	480,000
287,000	借 入 金	668,000
261,000	未 成 工 事 受 入 金	543,000
	資 本 金	1,500,000
	完 成 工 事 高	2,350,000
823,000	材 料 費	
793,000	労 務 費	
785,000	外 注 費	
308,000	経 費	
160,000	給 料	
25,000	支 払 家 賃	
	雑 収 入	5,000
11,000	支 払 利 息	
7,840,000		7,840,000

<資料2> 平成×年6月21日から6月30日までの取引

- 21日 工事契約が成立し、前受金として¥100,000を小切手で受け取った。
 // 材料¥65,000を掛けて購入し、本社倉庫に搬入した。
- 22日 工事の未収代金¥160,000が当座預金に振り込まれた。
- 23日 外注作業完了の報告があり、その代金¥150,000を請求された。
- 24日 材料の買掛代金¥200,000の支払のため、約束手形を振り出した。
- 25日 現場作業員の賃金¥180,000を現金で支払った。
 // 本社事務員の給料¥140,000を現金で支払った。
- 26日 材料¥58,000を本社倉庫より現場に送った。
- 27日 銀行へ取立依頼中の約束手形¥100,000が期日到来につき、当座預金へ入金となった旨の連絡を受けた。
- 28日 本社事務所の家賃¥25,000を現金で支払った。
- 29日 工事が完成し、発注者へ引き渡した。工事代金¥550,000のうち前受金¥150,000を差し引いた残額を請求した。
- 30日 当社振出しの約束手形¥180,000が期日到来につき、当座預金から引き落とされた。
 // 銀行から¥300,000を借り入れ、利息¥1,000を差し引かれた手取額¥299,000を当座預金に預け入れた。

〔第4問〕 次の文の の中に入る適当な用語を下記の〈用語群〉の中から選び、その記号（ア～ス）を記入しなさい。

(10点)

- (1) a は、特定の工事ごとに個々の取引を集計できるように工夫された帳簿であり、 b 勘定の補助簿としての機能を果たしている。
- (2) 材料の c を把握する方法として、 d と棚卸計算法がある。
- (3) 受取利息は収益の勘定であり、前受利息は e の勘定である。

〈用語群〉

ア 資産	イ 負債	ウ 費用	エ 購入数量
オ 消費数量	カ 工事台帳	キ 材料元帳	ク 未成工事受入金
コ 未成工事支出金	サ 継続記録法	シ 貯蔵品	ス 完成工事未収入金

〔第5問〕 次の〈決算整理事項等〉により、解答用紙に示されている島根工務店の当会計年度（平成×年1月1日～平成×年12月31日）に係る精算表を完成しなさい。なお、工事原価は未成工事支出金勘定を経由して処理する方法によっている。(28点)

〈決算整理事項等〉

- (1) 機械装置（工事現場用）について¥48,000と備品（一般管理部門用）について¥31,000の減価償却費を計上する。
- (2) 有価証券の時価は¥350,000である。評価損を計上する。
- (3) 受取手形と完成工事未収入金の期末残高の合計額に対して2%の貸倒引当金を設定する。（差額補充法）
- (4) 保険料には、前払分¥4,000が含まれている。
- (5) 貸付金利息の未収分¥2,400がある。
- (6) 未成工事支出金の次期繰越額は¥380,000である。